

平成 29 年 2 月 21 日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）「学びの変革」の浸透について

県では「学びの変革」を実践するモデル校などを指定し、教材作成などの取組をしているところであるが、教員の働き方を含め、現場の実情をどのように把握し、また、課題をどのように認識し、来年度、どのように「学びの変革」の浸透を図っていかうとしているのか、教育長に伺う。

（答）

本県では、変化の激しい社会を生き抜くことのできる子供の資質・能力の育成を目指し、知識ベースの学びに加え、知識を活用し協働して新たな価値を生み出すことを重視した主体的な学びを促すための教育活動、広島版「学びの変革」を重点的に進めているところでございます。

小・中学校及び高等学校におきましては、現在、指定校を中心に、児童生徒が学習した知識等を活用した課題発見・解決学習が行われるようになってきており、学力調査等の結果から知識の定着にも一定の成果がみられると捉えております。

一方で、課題といたしましては、全ての教員が「学びの変革」を十分理解しているとは言えないことや、生徒が主体的に学習する授業スタイルに変えることに伴う教材や指導方法の研究に時間を要することなどから、指定校以外の学校への普及が十分に進んでいないことが挙げられます。

このため、来年度は、優れた授業を参観するなど授業研究を中心とした研修を実施するとともに、各指定校の優れた実践を取りまとめた事例集を作成・配布し、すべての学校において児童生徒の実態に応じた授業づくりに活用することとしております。

また、授業における ICT の導入・活用をはじめ、教員業務をサポートする教務事務支援員の拡充や、県立高校への校務支援システムの導入などによりまして、教員が専門性を発揮できる環境を整備することとしております。

教育委員会といたしましては、こうした取組によりまして、「学びの変革」が平成 30 年度に全県展開できるよう努めてまいります。